

<まち歩き概略>

「相国寺の七重の塔の上から見た花の御所と比丘尼御所を巡る」

はじめに

室町時代の政治と文化の中心は上京にありました。なかでも烏丸今出川の西北には「花の御所」と呼ばれる室町幕府第3代将軍・足利義満(写真1)の広い邸宅(室町第)がありました。一般に、「御所」とは天皇の住まいを意味しますが、この時代は将軍などの住まいも御所と呼ばれていました。

室町時代の上京の街並みは、義満が建てた相国寺の七重の塔の上から眺めて描かれた「洛中洛外図(屏風)」からもうかがえます。

洛中洛外図にある花の御所は今は跡形もありませんが、600年を経た現在もほぼそのままの位置に名前を引き継いで立っている建物がいくつかあります。

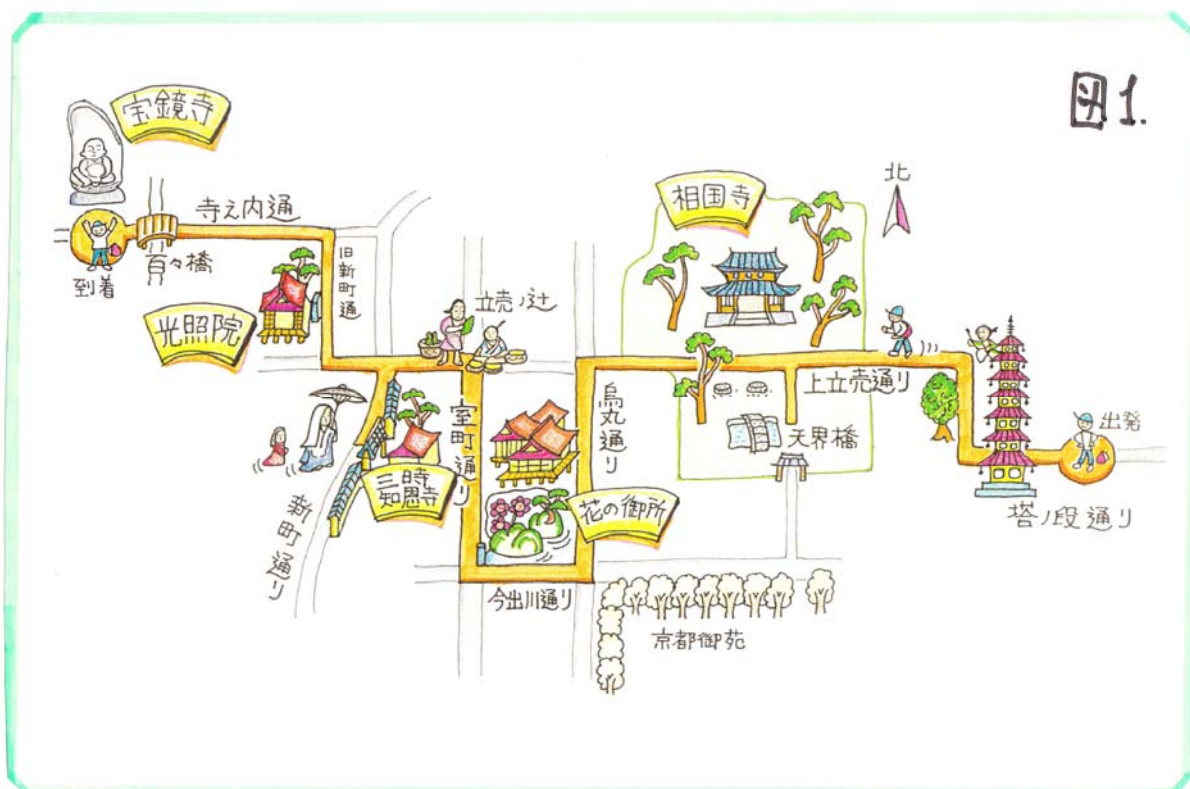
天皇や将軍の子女が入寺した比丘尼御所(尼門跡寺院)の数々も洛中洛外図に描かれ、今も現存する建物の一つです。現在の建物は、京都全体が焼け野原となった応仁の乱以後に再建されたものですが、比丘尼御所はその法灯を今に守り継いでいます。

七重の塔のあったことを示す「塔ノ段通り」を出発点に、義満の室町時代をしのばせる旧地や建物などを巡ります(図1)。

写真1



利義満像



七重の塔の跡(塔ノ壇)

相国寺の六角七重の塔は、義満が父の第2代将軍・義詮の三十三回忌供養のために建てた大塔です。1399年に完成しましたが、1470年に落雷で焼失しています。今は通り(塔ノ段通り)や町の名(上塔之段町、下塔之段町)にその跡を残すばかりです。

塔の高さは109m(360尺)もあったので、この塔からの京の眺めは、今で言えば、京都タワー(131m)の展望台(100m)からの眺めに匹敵します。

室町時代の洛中洛外図には、塔の立つ足元の相国寺はもとより、遠くは嵐山や鞍馬山、高尾、稻荷山など洛外の名所まで広く俯瞰した絵が描かれています。当時の絵師は相国寺の塔の上から京都の街並みを眺めて絵を描いたと考えられています。

塔ノ段通り(写真2, 3)から上立売り通りまで上がって相国寺に向かいます。

写真2



塔ノ段通り

写真3



塔ノ段通りの近くの大木

相国寺

(図2、3)

図2



花の御所

相国寺

江殿

立虎
池

図3



相国寺

足利義満は花の御所を完成させた翌年(1382年)に足利家の氏寺・相国寺を創建しました。当時の境内は今より広く、洛中洛外図に描かれているように相国寺と花の御所は隣り合っていたと思われます。北山の金閣寺も東山の銀閣寺もこの相国寺の塔頭寺院(子院)です。

絵に描かれている山門は今はありませんが、その礎石は大きな松林の中にひっそりと残っています(写真4)。絵の中の赤い欄干の橋は応仁の乱で戦いの場となった功德橋でしょうか。今は天界橋と呼ばれ、ハス池(功德池)にかかる石橋として残っています(写真5)。

写真5



功德池にかかる天界橋

花の御所(義満の室町第)

(図2)

図2



花の御所

相国寺の緑の境内を東西方向に貫く上立売り通りを西へ烏丸通りまで歩きます。ここは義満の邸宅(室町第)の東北角にあたります。ここから今出川通りまで南へ300m、さらに室町通りまで西へ120mの範囲が室町第です。二辺をぐるりと巡るとあらためて室町第の広がったことが実感されます。

当時、賀茂川の支流が西賀茂の辺りで分かれて南下し、相国寺の境内を北から南へ流れていました。その支流の一部は義満の室町第に引かれて庭池となり、その周囲には築山が作られました。室町第には四季の花々が咲き誇っていたので「花の御所」とも呼ばれていたわけです。

今はこの辺りは、同志社大学寒梅館、大聖寺、病院、商店、民家などが建ち並んでいますが、全て昔の花の御所の範囲内に存在しています(写真6)。



写真6

同志社大学寒梅館の南隣の大聖寺は「御寺御所」とも呼ばれ、比丘尼御所の一つです。義満が光厳天皇の没後に尼僧となった天皇のお妃を花の御所内に迎えたのがこのお寺の始まりです。花の御所内にあったため、洛中洛外図には描かれていません。大聖寺は非公開寺院ですが、境内には「花の御所跡」の石碑があります。なお、大聖寺の建物は今年1月、国の登録有形文化財に登録されています。

室町上立売(立売ノ辻)

室町時代の京都の人口は 10 万人程度と推定されていますが、その多くは上京と下京の二つの町に住んでいました。上京は花の御所や天皇の内裏(御所)を中心とした武家と公家の町でした。一方、下京は商業や手工業が盛んに行われた庶民の町でした。二つの町の周りは田畑ばかりで、室町通りだけが上京と下京をつなぐ唯一の路でした。

室町今出川の角の散髪屋さんの横には「足利將軍室町第址」の石碑が立っています(写真7)。この石碑を右に見て、室町通りを上立売通りまで北上します。



拡大



写真7

室町今出川
「足利將軍室町第址」

室町通りと上立売通りの交差点・室町上立売は、昔「立売ノ辻」と呼ばれていました。「立売」とは「店を構えない路上の商売」のことですが、この辻は商人が決まった日に集まり来て商う上京一のにぎやかな場所でした(写真8)。



写真8

室町上立売
「立売ノ辻」

花の御所も室町通りに向けて表門を開けていたので室町第と呼ばれたわけですが、義満が室町第から北山の金閣寺(北山第)に向かう際には、立売の辻を左に折れて上立売通りを西へ、牛に引かせた花車に乗って出掛けたことでしょう。

三時知恩寺(入江御所) (図4)

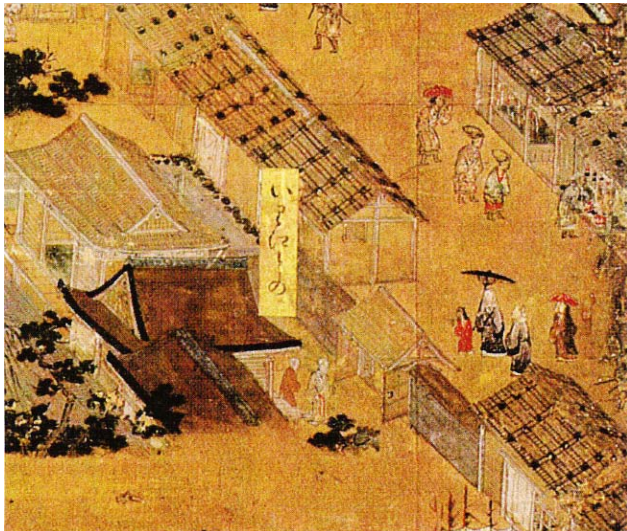


図4

写真9



入江殿
(三時知恩寺)

上立売通りを西へ進み新町通りの角を南に少し下ると、三時知恩寺(入江御所)に着きます(写真9)。

三時知恩寺は洛中洛外図には「入江殿」として描かれています。入江殿とは、このお寺の開基となった義満の娘のことです。門前には傘をさした入江殿と思われる尼僧がお供をつれて外出から戻ってきた様子が描かれています。

三時知恩寺の前の新町通りは、北から南へなだらかに傾斜しています。そのため新町通りに沿って50m以上続く五本線の築地塀は大変印象的です。洛中洛外図に斜めに描かれた塀のイメージと重ね合わせることで、600年という長い年月を経て静かに存在するこのお寺の奥深さに感動を覚えます。

このお寺は浄土宗知恩院派のお寺です。応仁の乱後に、天下万民に思いをはせる後柏原天皇が、宮中で一日6回行う勤行(念仏や読経)のうち昼の三時(みとき)は政務で忙しく行い難いため、この寺で三時の勤行を行うようにと勅命しました。以来、このお寺は三時知恩寺(さんじちおんじ)と呼ばれています。

このお寺も非公開寺院ですが、今年6月に400年前に制作されたご本尊の「善導大師像」が初の解体修理を終えて披露されました。善導大師様は、草花を描いた緑色の袈裟(けさ)をかけておられます(写真10)。今秋の10月28日(金)～11月6日(日)にも特別公開される予定です。

写真10



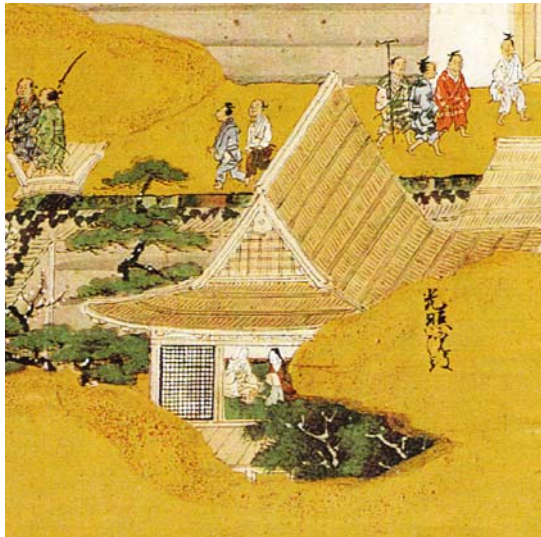


図5-1

光照院
(5-1)



図5-2

光照院(5-2)

もう一度新町通りを上立売通りまで戻り、西に向かって一筋目(旧新町通り)を北へ少し上がると光照院に着きます。

門前には「持明院仙洞御所跡」の石碑が立っています(写真 11)。仙洞御所とは天皇を退位した上皇の住まいのことですが、持明院仙洞御所は、室町時代の前の南北朝時代の二皇統の一つであった後深草天皇に始まる持明院統(北朝)の仙洞御所のことです。

光照院は南北朝時代に室町一条に創建されていましたが焼亡し、その後、この持明院の旧地に再建されました。残念ながら、このお寺も非公開寺院です。

写真 11



写真 11



宝鏡寺(百々御所)

(図6)



旧新町通りを寺ノ内通りまで上がって西へ進むと小川通りとの角にあたります(写真12)。小川通りは1963年に埋め立てられるまで、その名の通り、小さな川が流れていました。角の公園には小川にかかっていた百々橋の橋脚の礎石の一つが記念に残されています。洛中洛外図の宝鏡寺の前にも、小川と百々橋が描かれ、寺の内通りを歩いてきた商人が橋を渡ろうとしています。



この公園の西隣りにあつて寺ノ内通りに門を開けているのが現在の宝鏡寺です(写真13)。このお寺のご本尊の聖観音菩薩様は手に宝鏡を持っていることから宝鏡寺と呼ばれます。

このお寺も非公開寺院ですが、代々、皇女が入寺する際に持参した御所人形が寺宝としてたくさん残っており、毎年春と秋に皇室ゆかりの人形を特別公開しているため「人形寺」としても広く知られています。



写真12

寺ノ内小川の角
百々橋の橋脚の礎石

さいごに

順番に巡ってきた比丘尼御所の各々には足利義満の子女たちも各々入寺しています。

上京区の中でも室町通りを中心としたこの辺りは、義満の生きていた証が、通りの名前だけではなく建物の由来にも色濃く残っており奥深い歴史のあるエリアです。

なお、上京区には上述の 4 つのお寺以外にも、宝慈院(千代野御所)、慈受院(薄雲御所)、本光院(蔵人御所)といった比丘尼御所があります。

図の説明	タイトル 説明文	種類	原本
図1	花の御所と比丘尼御所を巡るコース		(本コンテスト応募用自家製)
図2	花の御所、相国寺、立売ノ辻、入江殿 周囲を堀で囲まれた立派なお屋敷が花の御所で す。南側の大きな築山は築山南半町、築山北半町 としてその名前が残っています。右下の相国寺と花 の御所の間が立売通り(現在の上立売通り)です。 (なお、この絵に描かれている花の御所は第12代将 軍・足利義晴の時代のものです)	上杉本	岡見正雄、佐竹昭広：標柱 洛 中 洛外屏風 上杉本 pp100-101、岩波書店、1983
図3	相国寺 立派なお堂の数々は応仁の乱で焼けましたが、 左下の天界橋と思われる橋は現在もハス池に架か る石橋として見られます	上杉本	原敏、編：洛中洛外図 岡山日 報社、1981
図4	三時知恩寺(入江御所) 傘をさした尼僧の入江殿がお供をつれて外出から 戻ってきた様子が描かれています	歴博甲 本	京都国立博物館、編：洛中洛外 図 都の形象 - 洛中学外の世 界、pp14、淡交社、1997
図5	光照院(常磐御所) 上の絵(5-1)では室内に、下の絵(5-2)では縁側に 尼僧と女性が見られます。	上杉本	岡見正雄、佐竹昭広：標柱 洛 中洛外屏風 上杉本 pp78、岩 波書店、1983
		東博模 本	京都国立博物館、編：洛中洛外 図 都の形象 - 洛中学外の世 界、pp26、淡交社、1997
図6	宝鏡寺(百々御所) 上の絵(6-1)では天秤棒をかついだ三人の商人 が、下の絵(6-2)では寺の内通りを牛に荷物を乗せ て引いてきた商人が百々橋を渡ろうとしています。	上杉本 歴博甲 本	岡見正雄、佐竹昭広：標柱 洛 中洛外屏風 上杉本 pp77、岩 波書店、1983 京都国立博物館、編：洛中洛外 図 都の形象 - 洛中学外の世 界、pp12、淡交社、1997

写真の説明	タイトル 説明文
写真1	足利義満像(等持院で撮影)
写真2	塔ノ段通り
写真3	塔ノ段通りの近くの大木
写真4	相国寺の山門跡の礎石
写真5	功德池にかかる天界橋 洛中洛外図にある赤い橋・功德橋は、今日、天界橋と呼ばれています
写真6	大聖寺と同志社大学寒梅館 花の御所の跡地に立っています
写真7	室町今出川 角の散髪屋さんの横には「足利将軍室町第址」の石碑が立っています
写真8	室町上立売 「立売ノ辻」と呼ばれ上京一にぎやかな場所でした
写真9	三時知恩寺 新町通りの坂道に沿って続く築地塀が印象的で、洛中洛外図で斜めに描かれている塀を彷彿させます
写真10	三時知恩寺の善導大師様 今年 400 年ぶりに修復されて草花を描いた緑色の袈裟も鮮やかになりました (京都新聞 2011 年 6 月 4 日より)
写真11	光照院 門前には光照院よりも以前に立っていた「持明院仙洞御所跡」の石碑が立っています
写真12	寺ノ内小川の角 角の公園には小川にかかっていた百々橋の橋脚の礎石の一つが記念に残されています。公園の西隣りが宝鏡寺です
写真13	宝鏡寺 毎年春と秋に皇室ゆかりの人形を特別公開しているため「人形寺」としても広く知られています